

かざはや  
風早

# トンボサミット 2022



オオキトンボ・羽化直後



オオキトンボ・縄張り中

【日時】  
令和4年10月30日(日)  
13:00~16:00

【場所】  
北条ふるさと館1階研修室  
松山市河野別府995

オンラインZoom

## ■講演

虫の目で自然観察を楽しむ!

新開 孝さん(昆虫写真家)

■オオキトンボの調査、トンボを守る活動の報告 など

■ディスカッション

オオキトンボがいる里地には、いろいろな生きものがすんでいます。生きものの不思議(ふしぎ)や観察(かんさつ)のおもしろさに気づき、守ることも考えます!



オオキトンボ・産卵中

【主催】NPO法人 森からつづく道

【協力】日本トンボ学会

愛媛大学農学部環境昆虫学研究室  
風早活性化協議会

【後援】愛媛県、松山市、愛媛県教育委員会、  
松山市教育委員会、環境省中国四国地方環境  
事務所四国事務所、NHK松山放送局、  
愛媛新聞社

この事業は独立行政法人環境再生保全機構  
地球環境基金の助成を受けて実施します。



ご参加いただき、ありがとうございます。

オオキトンボは希少な赤トンボの仲間（環境省絶滅危惧ⅠB類）ですが、松山市北条地域は最も多く生息する地域の一つです。

NPO法人森からつづく道は、2016年からオオキトンボ保全のために調査・啓発活動を行っています。

オオキトンボを里地の生物多様性保全のシンボルと位置づけ、里地が良好に維持されることの大切さを発信し、北条地域の人と自然との関わりの豊かさを感じていただきたいと願っています。

本日は、生きもの観察の魅力を共有するとともに、里地の生物多様性の保全のために、どのようなことが必要か、と一緒に考える機会とさせていただきたく、よろしくお願いいたします。

## スケジュール・内容

12:30 受付開始

13:00 プログラムスタート

### ■講演 『虫の目で自然観察を楽しむ!』

新開 孝(しんかいたかし)さん (昆虫写真家)



13:50 ■休憩

14:00 ■オオキトンボの調査、トンボを守る活動の報告など

(1) オオキトンボの希少性と現状

久松 定智 さん

(日本トンボ学会自然保護委員会オオキトンボ部会長)

(2) 北条地域のオオキトンボ調査からわかったこと

松井 宏光 (NPO法人森からつづく道 代表)

(3) 愛媛県のトンボの種類と現状

武智 礼央 (NPO法人森からつづく道 理事)

(4) 四国のトンボの現状と課題

杉村 光俊 さん

((公社)トンボと自然を考える会 常務理事)

15:20 ■ディスカッション

『里地の生きものが減っている? 身近な生態系を守るために』

コーディネーター 吉富 博之 さん (愛媛大学農学部環境昆虫学研究室准教授)

16:00 終了

## 『虫の目で自然観察を楽しむ!』

新開 孝(しんかいたかし)さん (昆虫写真家)

トンボもふくむ身近な虫のくらしを読み解くことから自然を広く眺めてみましょう。生きものと環境との関わり方を、虫の「しわざ」や「行動」などの生態写真で紹介します。



1958年、愛媛県生まれ。愛媛大学農学部環境保全学科卒。応用昆虫学専攻。教育映画の演出助手などを経て、フリーの昆虫写真家として独立。昆虫の多様で不思議な生態や形態を掘り下げ、独自の視点から撮影を続けるほか、様々な動植物にも目を向け、生きものたちのつながりも観察、撮影する。宮崎県三股町在住。主な著書に『むしこぶ みつけた』(ポプラ社)、『うまれたよ!カメムシ』(岩崎書店)、『虫たちのふしぎ』(福音館書店)、『虫のしわざ観察ガイド』(文一総合出版)、『虫のしわざ図鑑』(少年写真新聞社)など多数ある。

## オオキトンボの調査、トンボを守る活動の報告 発表概要

## (1) オオキトンボの希少性と現状

久松 定智 さん (日本トンボ学会自然保護委員会オオキトンボ部会長)

オオキトンボ *Sympetrum uniforme* (Selys, 1883)は、アカネ属に所属する、いわゆるアカトンボの一種である。本種は、極東アジアの中国・朝鮮半島・極東ロシアに分布するほか、北海道・本州・四国・九州の広いエリアから記録がある。本邦においては、過去には34都道府県から記録されているものの、発生が確認されている現存産地は7府県にまで減少しているとされる。このように本種は、現存産地の激減により環境省絶滅危惧IB類にランクされており、その保全が急務となっている。

本講演では、主に本種の現存産地の状況を中心に、その生活史や生息状況の現状について紹介、その本種の保全策や、今後の課題を検討する。

## (2) 北条地域のオオキトンボ調査からわかったこと

松井 宏光 (NPO法人森からつづく道 代表)

2016年から本年度まで北条地域でオオキトンボの集中的な調査を実施した。

その結果、継続して発生している池は5池、断続して発生している池は6池であった。各池に共通する点として、①平地の皿池か斜面下部の丘池であること、②水際が砂質(真砂土)の緩斜面であること、③冬に池干しがされていることであった。

もっとも多産している田村池では6月~8月に羽化殻調査と9月~12月に成熟個体・産卵調査を週一回実施した。その結果、発生に重要な要因として、①9月下旬から水際に産卵するが水位が早期から徐々に下がることで広い範囲に産卵できること、②冬の池干しによって水質改善がされること、③春には早期に水位が上昇し卵が段階的に孵化できること、④羽化の始まる6月上旬には満水となり堤体に羽化直後の個体が避難できる草むらがあることなどが挙げられ、水管理がオオキトンボの発生に大きく関係していることが分かった。

### (3) 愛媛県のトンボの種類と現状 武智 礼央 (NPO法人森からつづく道 理事)

愛媛県では、越冬が確認されていない種や未採集の種も含めると、現在までに92種のトンボが記録されている。92種といっても、もはや見つけることが困難な種や、近年新たに仲間入りをした種などいろいろである。

愛媛県レッドリスト2020では、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)が9種、絶滅危惧Ⅱ類(VU)が5種、準絶滅危惧(NT)が14種、情報不足(DD)が1種選定されている。彼らが減少した理由はいくつか考えられるが、高齢化などによる農業の担い手不足で、中山間地域だけではなく、市街地近郊でも耕作放棄が進み、その周辺の水辺環境が悪化したこと、また、老朽化や維持管理の労力削減、耐震などを理由に、多くのため池や水田で改修工事や圃場整備が行われてきたことが挙げられるだろう。近年確認されるようになった種、増加している種のいくつかについては、地球規模の温暖化に起因すると考えられる分布の北上による記録である。

希少種の新産地情報など、嬉しい情報も含めて、愛媛県内のトンボ情報を提供できれば幸いです。

### (4) 四国のトンボの現状と課題 「変わりゆくトンボの暮らし」 杉村 光俊 さん

1. 過疎化による自然放置
  - 棚田の荒廃…棚田と溪流性トンボ類の減少
  - 足摺半島のミナミヤンマ
2. 農業問題
  - ネオニコ農薬の脅威
    - 香川県高松市香東川の例…キイロヤマトンボ・ホンサナエ等の減少
    - 高知県四万十川水系の例…グンバイトンボ・ヒメサナエ等の減少
  - 無農薬の水田
    - 愛媛県久万高原町…ナツアカネとミヤマアカネが多産
  - 飼料米水田の普及
    - 高知県三原村…コノシメトンボが増加
    - 高知県四万十市…マイコアカネが増加
3. 温暖化の進行
  - 南方系種の分布域北上…ベニトンボとアオビタイトンボ(2022年8月4日に徳島県でも1♂確認)
  - 北方種の分布南限北上…高知県と南予のオツネトンボ
    - 10年ほど前まで多産していた南予4ヶ所のため池では2020年は4月4日に宇和島市(三間)兼近で2♂、鬼北町(広見)沢松で1~2♂確認、2021年は3月26日に宇和島市(三間)大藤中山池近くの墓地上のため池で2♂+連結1を確認、2022年は何れの場所でも確認できず。
4. その他(時間が余れば)
  - 愛媛県のオオルリボシヤンマとミナミヤンマについて

